

中学歴史教科書 読み比べ

令和元年
7月19日(金)
第10号

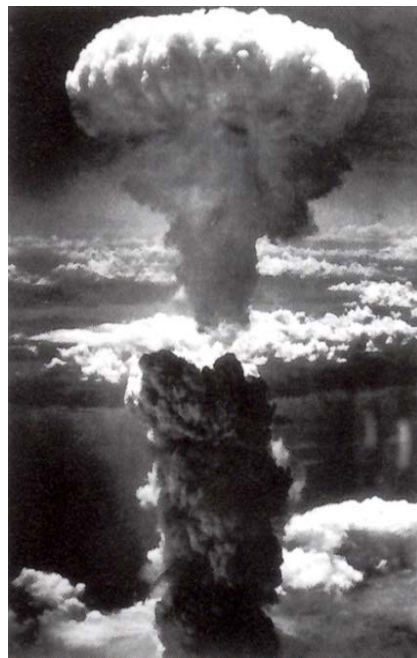
<発行者>
千葉県
中学歴史教科書
読み比べ会

<連絡先電話>
070-6941-1941

御前会議

ポツダム宣言受諾を決めた日本の苦悩

千葉県中学歴史教科書読み比べ会 オフィシャルサイト: <https://kyokasyoyokunare.jimdo.com/>



長崎に投下された原子爆弾
(自由社版中学歴史教科書より)

【はじめに】

今年もまた、八月がやって来る。
二〇世紀最大の戦争犯罪である広島、長崎への原爆投下の日が近づいて来るのだ。日本は、世界で唯一核兵器が実験使用された国である。原爆投下による死者は、広島で約二〇万人以上、長崎で約七万人以上とも言われている。そして、その犠牲者の多くは非戦闘員(一般市民)だったのだ。
人類は、二度とこのような不幸な出来事は起こしてはならないし、また決して歴史の彼方に追いやってはならない。八月の原爆投下の日を迎えるたびに、犠牲者への追悼の念と、平和への誓いを新たにすると次第である。
この原爆投下からポツダム宣言受諾にいたる過程について、各社の歴史教科書は、どのように記述しているのだろうか。
以下、東京書籍、教育出版、帝国書院、自由社の順に引用する。

【東京書籍】

「日本の降伏」本文二二九頁
「一九四五年七月、連合国はポツダム宣言を発表し、日本に対して軍隊の無条件降伏や民主主義の復活、強化などを求めま

した。しかし、日本は、すぐにはそれを受け入れませんでした。アメリカは、原子爆弾(原爆)を八月六日に広島、九日には長崎に投下しました。また、ソ連が、八月八日に日ソ中立条約を破って参戦し、満州や朝鮮に侵攻してきました。ようやく日本は、ポツダム宣言を受け入れて降伏することを決め、八月一日には、昭和天皇がラジオ放送(玉音放送)で国民に知らせました。…」
「原爆ドームの保存と平和への願い」コラム二二〇～二二三頁
「原水爆禁止運動」コラム二四九頁
「一九五四(昭和二九)年三月一日、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行い、遠洋まぐる漁船の第五福竜丸が、放射線を出す「死の灰」を浴びました。…」
こうした中、原水爆の禁止を求める署名運動が、東京杉並区などから全国に広がり、三三〇〇万人をこえる署名が集まりました。そして、原爆投下から一〇年後の一九五五年八月六日、広島市で第一回原水爆禁止世界大会が開かれ、…原水爆禁止運動は、さまざまな困難に直面しながらも、ねばり強く続けられています。…」

【教育出版】

「原爆投下と日本の降伏」本文、写真二二九頁
「…七月には、三国の首脳が…ポツダム宣言を発表しましたが、日本はこれを無視しました。アメリカは、戦後の世界ではソ連より優位に立つねらいもあって、八月六日には広島に、八月九日には長崎に、原子爆弾(原爆)を投下しました。原爆による死者は、被爆後の死者を含めて、広島が二〇万人以上、長崎が一〇万人以上に及び、街は廃墟になりました。…」
「原水爆禁止運動」本文、写真二四五頁
「…米ソ両国は、一九五〇年代になると競って水爆実験を開始し、人類は大きな危機に直面しました。一九五四年には、太平洋のビキニ環礁で行われたアメリカの水爆実験により、第五福龍丸などの漁船が「死の灰」を浴びるといふ事件が起こりました。このため、国内では母親たちなど市民の運動をきっかけに原水爆禁止運動が広がり、一九五五年八月、最初の原水爆禁止世界大会が広島で開かれました。…」

【帝国書院】

「原子爆弾の投下」本文、写真二二二～二二三頁
「日本は一九四五(昭和二〇)年七月に出されたポツダム宣言

を黙殺しました。アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位に立つため、**原子爆弾(原爆)**の投下を決定しました。八月六日午前八時一五分に広島へ、八月九日午前一時二分に長崎へ投下された原子爆弾により、町の中心は壊滅しました。広島では約一四万人もの人々が、長崎でも一九四五年末までに七万人を数える人々が犠牲になりました。そのときに生き残った人々も、放射能の後遺症などによって苦しみました。

そして八月八日深夜、ソ連は、ヤルタ会談での密約をもとに日ソ中立条約を破って「満州」や南樺太などに攻め込み、日本軍と衝突しました。事態を重く見た日本政府は、ポツダム宣言ならば天皇制が維持できることなどを理由に、一四日にポツダム宣言を受け入れて降伏することを決めました。翌一五日、昭和天皇はラジオ放送でこの決定を国民に知らせました(玉音放送)。

「新たな対立の始まり」本文二四二頁
「冷戦は核兵器をはじめとする軍事兵器の開発競争を生み、核戦争が起る危険性も秘めています。核実験がさかんに行われるようになる」と、日本では原水爆禁止運動が始まりました。」

【自由社】

「沖繩戦・原爆投下・ソ連の侵攻」本文二四五頁

「ポツダム宣言が発表されると、鈴木貫太郎首相や主要な閣僚は、条件付きの降伏要求であることに着目し、これを受諾する方向に傾いた。しかし、阿南惟畿(あなみこれちか)陸軍大臣は国体護持の保証がないとして反対し、本土決戦を主張して譲らなかつた。ソ連の対日参戦決定を知らない政府は、仲介の返答待った。

その間に、八月六日、アメリカは世界最初の**原子爆弾(原爆)**を広島に投下した。ここにいたっては、日本政府も終戦を急ぐほかはなかつた。八日、ソ連はヤルタ密約にもとづき日ソ中立条約を破って日本に宣戦布告し、翌九日、満州に侵攻してきた。また、同日、アメリカは長崎にも原爆を投下した。」

「聖断下る」本文二四五頁

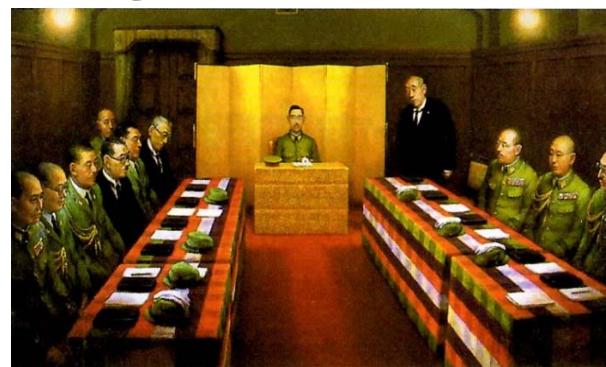
「九日深夜、昭和天皇の隣席のもと御前会議が開かれた。ポツダム宣言の受諾について、意見は賛否同数となり、結論を出せなくなつた。一〇午前二時、鈴木首相が天皇の前に進み出て聖断をあいだ。御前会議は一四日にも開かれた。天皇はこれ以上の国民の犠牲をさけるため、ポツダム宣言の即時受諾による日本の降伏を決断した。」

「二〇世紀最大の戦争犯罪」コラム二四八頁

「沖繩戦でも、本土の大都市への無差別爆撃でも、非武装の民間人が標的にされて大量に殺害されました。一九四五(昭和二〇)年三月一〇

日の東京大空襲の攻撃命令を受けたB29のアメリカ人パイロットは、それは戦時国際法違反ではないか」と司令官にといただいたといわれています。東京大空襲では、一夜にして一〇万人が焼け死にました。原爆投下による死者は、広島で約二〇万人以上、長崎では約七万人以上で、その犠牲者は一般市民でした。原爆投下は、その被害の規模において、二〇世紀最大の戦争犯罪といえるでしょう。」

①アメリカは、戦時国際法に違反し、無辜の市民を大量に殺戮した。
②ソ連は、ヤルタ密約に基づき、日本に侵攻してきた。③日本がポツダム宣言を受諾するにあたり、鈴木内閣ではギリギリまで結論が出ず、最後は御前会議において昭和天皇の聖断をあいだ。④原爆投下、核実験、原水爆禁止運動の併記。この内、①②③の歴史的事実を記述し、④の併記がないのは、自由社の教科書のみである。原水爆禁止運動が特定の政党の影響下にあることは、周知の事実であり、平和教育と称してこれを盛り込むことに強い違和感を覚える。歴史教科書は、特定のイデオロギーの宣伝材料にしてはならないと思う。



御前会議 1945年8月9日の会議のもよう。
中央に座っているのが昭和天皇。
立っているのが鈴木貫太郎首相。
(白川一郎筆 鈴木貫太郎記念館蔵)
(自由社版中学歴史教科書より)

「中学歴史教科書読み比べについて」

大手三社の中学歴史教科書の全国採択状況は、左記のとおりです。
東京書籍(六〇万七千八百五十六冊、占有率二五・〇%)、帝国書院(二一萬三〇七七冊、占有率一七・九%)、教育出版(一六萬八千七百八冊、占有率一四・一%) ※平成二八年度版 文科省公表値より

私共は、この大手三社に加え、自由社の併せて四社の歴史教科書を約二年間に亘って読み比べました。その結果、正しい歴史の記述がなされ、子供が日本の国に誇りの持てる歴史教科書は、自由社の教科書であるとの結論に至りました。私共はこの結果を踏まえ、全国の中学生の子供を持つ父兄、及び教育関係者への周知を図るため、「中学歴史教科書読み比べ」を不定期に発行し、全国の八割以上の中学校で採択されている大手三社の歴史教科書の問題点を明らかにしてゆく所存です。(会員一同)

※バックナンバーご希望の方は、オフィシャルサイトへどうぞ。